

佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する九州防衛局説明会 会議録

日 時：平成26年9月3日（水）

午後1時30分から午後2時20分

場 所：柳川市役所柳川庁舎第3・第4委員会室（4F）

柳川市

【目 次】

- 出席者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する柳川市長質問事項・・ P 3～P 4
- 説明会内容記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5～P 18

【出席者名簿】

| 九州防衛局 | | 柳川市 | |
|------------|--------------------|--------|--------------------|
| 役職名 | 氏名 | 役職名 | 氏名 |
| 局長 | つちみち あきひろ 槌道 明宏 | 市長 | かねこ けんじ 金子 健次 |
| 企画部長 | かしわや あつのり 柏谷 篤宣 | 副市長 | いしばし よしひろ 石橋 義浩 |
| 地方調整課長 | いけだ まなぶ 池田 学 | 総務部長 | おおつぼ まさあき 大坪 正明 |
| 地方調整課長補佐 | とみたか てつのり 富高 徹敬 | 市民部長 | いしばし しんごう 石橋 眞剛 |
| 地方協力確保室長補佐 | しん ひでき 進 英樹 | 企画課長 | かばしま けんじ 椛島 謙治 |
| | | 安全安心課長 | たじり かずのり 田尻 主範 |
| | | 農政課長 | なりきよ ひろしげ 成清 博茂 |
| | | 水産振興課長 | なかむら まさみつ 中村 正光 |
| | | 生活環境課長 | まつしま しんいち 松嶋 真一 |

佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する柳川市長質問事項

○空港利用の要旨について

- ① 今回、佐賀空港へオスプレイ17機、ヘリコプター50機を配備する計画となっていますが、なぜ、佐賀空港なのでしょう？

○飛行ルート及び飛行時間と飛行回数について

- ② オスプレイ及びヘリコプターの飛行ルートはどのようになるのでしょうか？
将来的に柳川市上空が訓練空域となることはないのでしょうか？本格的な訓練はどこに計画されていますか？
- ③ オスプレイに関して、離発着方法は垂直又は滑空のいずれとなるのでしょうか？
- ④ オスプレイ及びヘリコプターの飛行時間帯はどのようになるのでしょうか？
時間帯は決めず、昼夜を問わず、必要な時に自由に離発着するのでしょうか？
- ⑤ オスプレイ及びヘリコプターは、どれくらいの頻度で柳川市上空を飛行するのでしょうか（1日最大何回）？

○安全性について

- ⑥ オスプレイは、過去に多くの事故を起こしていると聞いていますが、本当に、安全性に問題はないのでしょうか？

○騒音及び影響について

- ⑦ オスプレイ及びヘリコプターが柳川市内を飛ぶ場合の高度、風圧、振動、騒音はどの程度になるのでしょうか？
- ⑧ オスプレイ及びヘリコプターについて、有明海を飛ぶ場合の高度、風圧及び海苔養殖への影響はどのようになるのでしょうか？特に、オスプレイの周辺では、風速40メートルの風が吹くと聞いていますが。

○米軍のオスプレイ配備について

- ⑨ 最近のマスコミ報道等によりますと、米軍のオスプレイ配備に関する政府の考えが変わってきているように感じられますが、米軍のオスプレイ配備に対する政府の考えは、暫定移駐又は訓練移転のいずれでしょうか？またはそれ以外なのでしょうか？

○事故対応について

- ⑩ あってはならないことではありますが、万が一、航空機等の事故や有明海への油の流出などがあった場合、どこが対応されるのでしょうか？

○影響調査について

⑪ 当然、オスプレイ及びヘリコプター配備に関する環境影響調査が実施されると考えますが、その場合、調査対象範囲に有明海及び柳川市が含まれるのでしょうか？

また、その実施時期と調査項目はどのようになっているのでしょうか？加えて、環境影響調査を実施するに当たっては、事前に柳川市への協議が行われるのでしょうか？

○説明会等について

⑫ 今後、福岡県有明海漁連やJ A柳川などの利害関係団体等への説明及び協議の場は、計画されてありますか？

【説明会内容記録】

（松嶋課長）

本日は、大変お疲れ様です。私は本日の司会進行を務めさせていただきます柳川市生活環境課長の松嶋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、只今より「佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する九州防衛局からの説明会」を始めさせていただきます。

説明会の冒頭に当たりまして、柳川市長より挨拶申し上げます。

（金子市長）

皆様こんにちは。本日はお忙しいところ、佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する説明会のため、本市へお越しいただきまして誠にありがとうございます。

なお、本日は、石橋副市長、大坪総務部長、石橋市民部長の他にオスプレイ配備等に関する対策チームのメンバーも同席しております。

これからは着座してご挨拶させていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて、現在、柳川市の上空が民間航空機の航路になっているため、佐賀県と本市との間で「有明佐賀空港における航空機の運航に伴う環境保全に係る合意書」を締結しております。有明海に近い地域では航空機が上空を通過するときはテレビやラジオの音が聞こえにくいなど、現在でも我慢を強いられている状況でございます。

また、柳川市は一番近いところで、佐賀空港から直線距離で約4キロ程度しか離れておりません。このため、地理的な面からも、今回の佐賀空港へのオスプレイ等の配備に対する市民の関心は非常に高いものがあります。

市民からは、オスプレイの安全性や騒音の問題、さらには、風圧や事故時の油の流出など海苔養殖への影響など市民から不安の声が上がっております。

さらに、佐賀空港への自衛隊やアメリカ軍のオスプレイ配備については、空港用途を民間用空港から軍事基地化へと大きく方向転換するものではないかと懸念する声も上がっております。私自身もそのような不安や懸念を抱いております。

柳川市は、水郷情緒あふれる静かで平和なまちでございます。その上空をオスプレイが飛び交うことになれば市民の平穏な生活に不安が生じ、また環境への影響も懸念されます。

私は国の安全保障に対する自治体の役割や、沖縄の基地負担軽減については十分理解しております。

しかしながらその一方で、市民の皆様が安全で安心して暮らすことができる環境を守ることも私の重要な責務であり、大変困惑しております。

このため、8月6日に副市長をトップとした「オスプレイ配備等に関する対策チーム」を立ち上げまして、情報の収集や本市への影響分析等を行っております。

本日は、九州防衛局からの説明を受けた後、色々と疑問に思っていることについて、ご質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(松嶋課長)

続きまして、九州防衛局からの説明をお受けしたいと思います。よろしくお願いたします。

(樋道防衛局長)

こうして本日説明の場所を与えていただきまして大変感謝しております。ありがとうございます。7月22日に当初防衛副大臣が佐賀県を訪れまして、本件、すなわち、陸上自衛隊のティルト・ローター機の佐賀空港への配備やあるいは目達原駐屯地のヘリ部隊の移設、さらに佐賀空港を沖縄負担軽減のために米軍に移住させたいと、こういう願いを申し上げました。

こうして初めて説明するに至りまして、これまで色々と市民の皆様の疑問があったにもかかわらず、私ども説明が不十分なために市長や皆様方にご迷惑をかけたことを申し訳なく思っています。本日は、機会をいただきましたので、手元の資料に基づきまして説明させていただきます。

実は、私はこちらに越してきたのは2年前でございまして、初めて九州の地に参りました。その翌春には、妻と娘を伴って柳川を訪れさせてもらいました。川下りもさせていただき、うなぎも食させていただきました。ちょうどひな祭りの時期で妻も娘も大変喜んでおりました。

こうした美しい水郷の町柳川のまちの風情を損なうことが無いように私どもも務めて参りたいと思います。十分かどうかわかりませんが説明させていただきます。

座らせて説明させていただきます。

それでは、お手元のパンフレットをもとに説明させていただきます。

大きく内容は、陸上自衛隊のティルト・ローター機の配備について、それから、米海兵隊のオスプレイについて、大きくこの2つに分けて書いてございます。陸上自衛隊の方ではティルト・ローター機としておりますが、これ実は、27年度の概算要求で計上しておりますけれども、実機選定が終わっておりませんで、そういう意味で一般的な名称としてティルト・ローター機という名称を使わせております。代表的な機種はまさにオスプレイでございます。ティルト・ローター機と申しますのは、垂直離着陸、ヘリコプターの機能とそれから固定翼の機能、長く早く飛べるという両者の機能をもった航空機でございます。

下に写真が出ておりますけれども、ヘリコプターのように垂直の離着陸ホバリングができる、或いは固定翼のように速度が速い、航続距離が長い、両方の特徴を持った航空機でございます。

ティルト・ローターというのは、ローターとはヘリコプターのエンジンでございまして、ティルトとは傾けることです。固定翼でも、傾けることでヘリのように飛べるといった特徴でございます。オスプレイの場合を例にとりますと、モードというのが3つに分かれておりまして、プロペラを水平にした時には固定翼、垂直にしたときにはヘリコプターのよ

うに、また、中間の転換モードというものがございます。

こうした航空機は陸上自衛隊は持っていないのですが、現有のヘリコプターで一番大きいものはCH47というものです。これは現在、ローターが縦に並んでいるもので、その両端を見ると30m。オスプレイは固定の翼の両端についているので、長さで言うと17.5mで大きさそのものは小さいものです。そして航続距離についてはCH47では約500キロ、それに対して、オスプレイの場合では600キロで約1.2倍。しかも、オスプレイの場合は空中で給油ができるので約1,100キロくらいまで飛べるということです。速度が約1.9倍といったところでございます。

なぜ、こういった飛行機が必要になるかということでございます。防衛省では、中期防衛整備計画に基づいて島の侵攻に対応するために、水陸機動団という部隊を新設するようしております。約3千人規模で、主力は佐世保に置く計画です。こうした部隊を離島などに迅速に投入するために、今の輸送ヘリでは速度や航続距離の問題で足りないところがあるところから、こうしたティルト・ローター機によって強化することを考えております。

計画においては17機のこうしたタイプの航空機を導入する計画で、これによって、離島の防衛、さらには災害に対する面において、遠いところまで早く駆けつけることができるということで重要な役割を担うと考えております。

また、ティルト・ローター機については、東京都小笠原村の議会からも離島の急患輸送に非常に有用であるということで早期の導入や運用についての要請を頂いております。

私どもは、陸上自衛隊が新たに導入する17機のティルト・ローター機の配備先として佐賀空港をお願いするわけですが、これは、我が国の防衛上の色々な観点や配備のための地積、或いは佐賀県における既存の自衛隊の飛行場の市街化等の負担軽減など様々な観点を考慮して佐賀空港が最適と判断しました。

具体的には、先ほど言いました水陸機動団が中心になります、水陸機動連隊が配備される予定の佐世保の駐屯地から約60キロと非常に近いと、そうした時に迅速かつ効率的な輸送に適していることです。

また、九州北部におきましては航空自衛隊の春日基地や海上自衛隊の佐世保基地など、主要な部隊の司令部等がありまして、統合運用といった観点から見ても非常に適しているということです。また、このティルト・ローター機というのは、確かに滑走路がない所でも離着陸ができるのですが、効率的な運用を考えますと、ある程度の長さの滑走路が必要になります。例えば、今、普天間飛行場の移設先として考えている名護の辺野古の代替飛行場ですが、1,800mの滑走路を予定しております。佐賀空港の場合、2,000m級の滑走路がありますので、そうした点でも十分に能力を満たしているということになります。

それから、佐賀空港につきましては、確かに、柳川につきましても音の問題等あるということでありましたが、元々はそうした騒音が無いようにということで海に面して干拓地に作られた飛行場であると聞いております。集落までの距離で言いますとかなりの距離が

他の飛行場と比べてもあるということですので、そういった地元の方々への負担も軽減できるのではないかというのが次の理由でございます。目達原駐屯地というのが佐賀県の吉野ヶ里町と上峰町にまたがって所在しているのですが、ここがかなり市街地化が進んでおり、駐屯地のすぐ横に家が建っているような状況であります。そうしたことから騒音問題も起きておりまして、そういった意味でも、目達原駐屯地から近い佐賀空港に移設することによって、負担軽減ができるのではないかと考えております。

佐賀空港にはティルト・ローター機17機に加えまして、目達原駐屯地のヘリコプター部隊約50機、合わせますと約70機の部隊、人員でいきますと700～800名程度を想定しています。現在、目達原駐屯地にあるヘリコプター部隊が所在するヘリが下にあるようなヘリでございまして、小さな観測用のヘリから輸送用のヘリ、そして対戦車ヘリコプターということで、いずれもシングルローター、プロペラが一枚の飛行機であります。小さめのヘリコプターということになります、こうしたものが所在しています。

ここからは、オスプレイについて説明させていただきますが、一番皆さんからご懸念を持たれているのは、安全性の面だと思います。これは、実際のところ沖縄に初めてオスプレイが来るときにかなり過去の事故について報道がありましたので、そういったところから懸念されているものと理解しておりますが、アメリカ政府は、2005年9月にオスプレイの量産を承認しましたが、確かに、それまでの開発途中において大きな事故が4件ありました。4件の事故についての詳細は下に書いておりますが、これは詳細は省略しますが、いずれにしても開発中の事故でしたので、その都度、問題点について解明し対策を行うことで技術的な問題はクリアされたとして、アメリカ政府は量産を承認したものであります。その上で、いま色々な個所で活躍しているところでございます。イラクやアフガニスタンでの主要な作戦はもとより、ハイチやフィリピンでの災害、そして、当時はオバマ大統領候補者でありましたけど、そうした要人、ホワイトハウスのスタッフ、さらに我が国の防衛大臣がアメリカに行った時は、オスプレイで輸送されたように外国からの要人を輸送するためにも使われており、これはまさに、アメリカ政府としてオスプレイの安全性についてゆるぎない自信を持っているからだと思えます。

我が国においても沖縄に配備されて以降も、色々な個所での実績があります。もちろん、本土においても岩国を拠点として運用していることもありますし、最近で言いますと、北海道にある丘珠という陸上自衛隊の駐屯地でも航空祭にオスプレイを展示したりしてしました。また、小野寺防衛大臣がこの7月に、父島小笠原村を訪れた際に、オスプレイに乗って行かれた経緯もあります。

また、九州で言いますと、宮崎県新田原の基地におきまして、昨年12月に航空祭を行った時に展示していますし、また、福岡県においては実際は天候不良でオスプレイは来なかったですけども、日米の共同防災訓練の際に高知県と福岡県の築城基地の間を急患輸送訓練をしようといった計画もありました。このように、色々な個所の訓練や展示の実績を重ねているところでございます。

量産決定後にも事故があったのではないかという指摘もあります。確かに大きな事故はございました。大きな事故という場合、人が死んだとか墜落したとかではなくて、2007年の11月6日の事故にありますように、エンジンが出火して機体に損傷を与えたといったことも事故として挙げています。このときは、エンジンルームの油圧ラインが壊れたということで、これについては、原因を究明し対策を講じているところでございます。

また、2012年4月モロッコでの事故、これは報道されたのですが、厳しい演習をやっている最中に、墜落したわけですが、これは、マニュアルでは風向きによって操作をするやり方が決まっていますが、そのマニュアルに反した人的なミスで起こったもので、機体の安全性、信頼性とは関係がないということです。そのため、こうしたマニュアルに従った操作をするような訓練を行っているところでございます。

そうした結果、オスプレイについては、10万飛行時間、一番飛行機に事故が起きやすい時間でも重大事故が少ないということであります。10万飛行時間で2件ということで、他の航空機、例えば、CH47というヘリコプター、UH60というヘリコプター、今こうした信頼性が高くて世界各国、わが国でも使っているヘリコプターでも導入当初はそれなりの事故がございました、そうしたものと比べても、オスプレイは導入当初から事故が少ない航空機ということであります。海兵隊のヘリコプターの中では最も事故が少ないといったものでございます。

海苔等の養殖との関係で言いますと、ホバリングをした時に下向きの風が影響あるのではないかとされておりまして、これは、私ども佐賀県にお示ししたときも直接海苔養殖業の方からも言われました。それに関わる話ですが、オスプレイでは確かに下降気流が発生します。これは、普通のヘリコプターも発生しますが、オスプレイの場合は、エンジンを垂直にするものですから、約6mの高さでホバリングした場合、半径約13mで風速25～30mの下降気流が発生することになります。ただ、いずれにしても、距離が離れば高さが高くなれば、その影響は低下します。実際のところ、上空6mでホバリングする状況というのは着陸するときや演習場で演習する場合、そういったことはあると思うんですけども、民家や、海の上などではホバリング想定されませんし、そういったことも踏まえて、環境レベル、アメリカ政府が行ったそういった事前の環境レベルにおきましても、公共の安全に問題を示さないと、そういった評価をしているところでございます。

もう一つ、オスプレイにつきましては、騒音の問題も懸念されていると思います、オスプレイの場合、特にオスプレイだからうるさいということではないですけども、ヘリコプター、CH47ですけど、2つのローターを持ったヘリコプター、大型のヘリになれば大きな音がパタパタと音がします。ただ、オスプレイの場合はいくつかの特性があります。1つは、巡航の時には固定翼モードで飛ぶのが普通ですが、固定翼で飛ぶ場合はヘリと違い音が少し小さくなります。つまり、普通のプロペラ機と同じような感じでございますので、高度が高くなるにつれて音が小さくなっていきます。固定翼の時は音があまりしないのが一つの特徴でございます。一方で、ホバリングの際は確かに音は大きくなります。

これは、中心点からの距離が離れていると小さくなるのですが、これも100m、200m、500m、と離れていくにしたがって音の特性でございますので、それに従って、どんどん小さくなると、こういうことでございます。

そして、このオスプレイの排気ガスが事故を起こすのではないかとと言われておりますが、ただ、排気デフレクタというような下向きの排気を斜めに逃がすようにしているので直接下を焼き付けるような火災はないと思います。質問については、また後でお受けしたいと思います。

最後に、1枚紙の一番下に今後の予定ということで、今回、平成27年度の概算要求におきまして、佐賀空港の配備を念頭に用地の取得、調査設計、地盤改良が必要ということのための経費等で約109億円を計上しております。これはあくまでも政府への概算要求です。私からの説明は以上です。

(松嶋課長)

ご説明ありがとうございました。それでは佐賀空港へのオスプレイ等配備に関する質疑応答にうつらせていただきます。防衛局におかれましてはよろしくお願いいたします。

(金子市長) …質問①

それでは、私の方から質問させていただきます。柳川市より12項目の質問させていただきます。

ただ今、局長の方から資料の説明を頂きました。質問項目が重複する場合もございます。重ねて説明をお願いしたいと思います。

まず最初に、今回佐賀空港にオスプレイが17機、目達原からヘリコプターが50機配備する計画になっております。市民の気持ちは、なぜ佐賀空港に配備されるのか？民間空港で飛んでいたのに、使っていたのにと疑問があります。先程ご説明がありましたけれどもよろしくお願いいたします。

(樋道防衛局長)

あの、重複しますけれども、一枚紙にも書いておりますので、もう一度説明いたします。

今の陸上自衛隊におきましては水陸機動団を創設するわけですが、その相浦駐屯地から60キロと近いことがまず一つでございます。そして、九州北部さまざまな主要部隊が配置されておきまして、それらとの交互運用に適しているというのが二つ目でございます。

また、ティルト・ローター機につきましてはある程度の長さの滑走路が必要でございますけれども、その要件を満たしているということ。さらに、他の飛行場に比べればということになりますけれども、市街地等から少なく、海に面しているということで、運用面の工夫によっては負担を軽減できるのではないかと、そして目達原駐屯地の付近が市街化が進んでいることから、あわせて、ここの軽減を図れるのではないかと。こうしたことから、

最適だと判断しました。もちろん、自衛隊も他の基地や他の一般の航空もあるのではないかとご指摘もありますが、こうした条件を満たすようなところが中々ございませんで、例えば、長崎県には大村基地がございますけれども、滑走路が1,200mしかございません。そうしたところから、ティルト・ローター機の運用としては不十分で。また、周りもかなり市街化が進んでいるということや、地積もかなり狭くて、そういった諸々の他のことに検討しましても、詰まるどころ、一般の空港であるのですけれども佐賀空港が一番いいという考えに至りました。

(金子市長) …質問②

ありがとうございました。12項目ありますので、時間の関係で次に移らせていただきます。

オスプレイの飛行ルートはどのようになるのかです。現在柳川市の上空、民間飛行機がちょうど両開というところを飛んでおります。だいたい、深夜便は10時まで、他に貨物便が2機、2時と4時に飛んでおります。オスプレイ、ヘリコプターの飛行ルートは同じルートなのか。そこら辺が一番関心が高いとこでございます。

もう一つは、将来的に柳川市の上空は、訓練の空域になることを心配しております。本格的な訓練はどこで行うのか、その辺についてお願いします。

(槌道防衛局長)

まず、あの具体的な飛行ルートには、まだお示しできる状況にはないですけれども、一般的な特性として申し上げますと、ティルト・ローター機、オスプレイといいますのは計器飛行でも飛べますし、有視界飛行でも飛べるという特性を持っておりますので、例えば、他のところでも訓練をしている説明をしましたが、米軍がどのようなルートで飛行場に接近するのかなと言いますと、やはり地元のご要望とあって、陸を飛ばないでほしいという要望があれば、海からの有視界飛行ルートで接近するのを基本とするような考え方でございます。

他方で、天候の不良で有視界で飛べない場合は計器飛行で飛べるのですけれども、こうした計器飛行のルートというのは、定まったルートがありますので、それに従って飛行することになるかと思えます。

いずれにしても、オスプレイが計器飛行で飛ぶには固定翼モードで飛びますので、通常のプロペラ機並みの音ということですから、ジェット機等に比べれば静かとは思いますが、また、柳川上空が訓練空域になるのは全くあり得ない話でございます。そういうご懸念には及ばないと思えます。

訓練はどこでやるかと言いますと、訓練は色々な訓練がありますが、離着陸を佐賀空港で使わせていただくということで、離着陸そのものが訓練になるといえば、それも訓練になるのですが、ホバリングをしたりという訓練は演習場で行うと考えております。街

の上で訓練を行うといったことはありません。

また、海苔養殖を行われている海のところでホバリング訓練を行うことはございません。その点はお示ししたいと思います。

(金子市長) …質問③、④

確認させていただきます。柳川の空域の中ではホバリングはしない、海の上でもしないということですね。それから、計器飛行をする場合は、オスプレイが柳川の上空を飛んでくるとなると、そういうことで、理解をしてよろしいですね。

また、有視界飛行については色々な方面から入ってくるということで、よろしいですね。

それでは3番目にまいります。オスプレイに関して離発着方法と言うのは、先程説明がありましたように垂直または滑空で飛んでくるということには理解しました。

次に、4番目のオスプレイ及びヘリコプター飛行時間帯はどのようになるのでしょうか。時間帯を決めず、昼夜を問わず、必要な時に離発着をするのではないかという心配をしておりますがいかがでしょうか。

(槌道防衛局長)

具体的な飛行時間帯は申し上げられませんが、防衛副大臣が佐賀県知事に申し上げたように、好き勝手に空港を使うことは、到底あり得ないことでございまして、空港管理条例や周辺の皆様方とのお約束で決められた、そうした条件に従って使わせていただくということでございます。

(金子市長) …質問⑤

わかりました。それから5番目の質問です。オスプレイ今回は17機、ヘリコプターが目達原から50機ということでございます。

それから沖縄の方から何機来るかわかりません。どのくらいの頻度で柳川市の上空を飛行するのか。今、柳川市の上空では、計器飛行で20機くらい飛んでいますが、それが50と17で67機と、頻繁に空の上を飛ぶようになるような感じを受けますがいかがでしょうか。

(槌道防衛局長)

具体的に柳川市の上空をどの程度飛ぶのか非常に難しいですけども、例えば、離発着の回数で言えば、目達原の駐屯地におきましては、現在、年間12,000回ほどの離着陸をしております。1日あたり40回位、ただ、それが全て遠くまで飛んでいるものでもなくて、周辺を飛ぶものや別方向に向っていくもの、ヘリコプターですから通常有視界でしか飛ばないので、通常は常習経路をまわって、そこから一定方向に向けていくと、それらがすべて柳川市の上空に向かうことはないだろうと思います。

オスプレイについては恐縮でございますけれども、まだなかなか何便かとは言えないですけれども、機数については17機ですけれども、特性上フル稼働することはございませんので、ヘリコプターに比べれば少ない数ですけれども、今のところ申し上げられるのはそれくらいです。

(金子市長) …質問⑥

今度は安全性の問題について質問いたします。先程、局長の方から、当初は事故が多かったけれど、少なくなってきたと説明を受けましたが、市民の方からは本当に安全なのかといった声も聞きます。このことについて、再度説明をお願いいたします。

(槌道防衛局長)

安全性につきましては、私どもは、米国政府も当然、かなり自信を持っているからこそ、自国や他国の要人を輸送に使っている訳でございますし、私どももティルト・ローター機として導入するという事は陸上自衛隊員の生命安全にかかわってくることでございます。当然のことながら、安全性に確証が持てなければ、導入はないと思います。導入する際には全ての安全性に関する検討が終わり、安全性が確認されたものと思います。

(金子市長) …質問⑦

ありがとうございました。続いて、7番目の質問でございます。説明の中にありますが、再度質問させていただきます。

オスプレイやヘリコプターが柳川市内を飛ぶ場合の高さ、高度についてです。それと、風圧、振動、騒音はどの程度になるのでしょうか。これも非常に市民の関心があります。また目達原から飛んできますと、バタバタバタという具合にかなり遠くからでも聞こえまして、3機くらい編隊で行くときも音がうるさいというか、うるさいという失礼ですけど、そういった音がいたします。どんなでしょうか。

(槌道防衛局長)

ヘリコプターについては、今日達原で運用されているのと同じになるので、同じような形で運用になると思います。高度も同じだと思います。もし仮に、上空を飛ぶ場合でもですね。オスプレイにつきましても計器飛行で飛ぶといった場合は、高度がどの程度になるかわからないが、定められた高度に沿って飛ぶことになるので多少違ってくるかということでございますが、風圧につきましては、どちらの場合にしても何百mといった高さになるので地表や海面に及ぶような風圧は当初考えられないだろうと思います。

振動についても同様でございます。従いまして、もし気になるとすれば、パタパタパタといった音ですね、非常に耳障りと感じる方もいると思いますが、そういった音かなと思います。

(金子市長) …質問⑧

8番目でございます。オスプレイ及びヘリコプターについて、有明海を通る場合の高度、風圧について心配されています。

特に柳川市の場合、福岡県の場合でもありますが、海苔の生産高が120億円から150億円位、佐賀県について全国2番目になります。漁家の方から風圧の被害、特に冬場の時期に飛んだ場合に影響しないだろうかと懸念されています。このことについて、再度説明をお願いします。

(樋道防衛局長)

海苔養殖はちょうどこれから種付けをして、盛漁期に入る重要な時期であると同っておりまして、

そういうこともあって、佐賀県でもこの点についてご懸念やご心配が出ていると同いました。

まず一つ確実に申し上げるのは、海苔養殖をやっているようなところで、直近上空でホバリングをすることはございません。先ほど説明したように確かに6m程度のホバリングをした場合には風速25m～30mの風でございますので、そういったことがあれば影響があると思いますが、そういうことは一切いたしませんので、そういった風圧等、風速25m～30mの風が海苔養殖に当たるとは全く想定されないと同思います。

そうは申しましても、養殖の作業において気になるとか、音が耳障りだとかそういったことはあるかと思同います。

なるべくそういったご心配にならないように、我々も説明に努めたり、また実際、飛行ルートの設定等において空港を管理している佐賀県とこれから協議をしていくことになるのですが、住宅地や海苔養殖の場所をできるだけ影響が及ばないようなルートや高度をと同いうのを研究していく形かなと、丁寧に説明を同思っています。

(金子市長) …質問⑨

わかりました。それでは米軍のオスプレイ配備について質問させていただきます。最近のマスコミ報道等によりますと、米軍のオスプレイ配備に関する政府の考え方は変わってきているのではないかと同感じています。米軍のオスプレイ配備に関する政府の考えは、暫定移駐または訓練移転のいずれでしょうか。

また、それ以外になりますか。説明をお願いします。

(樋道防衛局長)

ここはですね、私どもが進めているのは、佐賀空港を陸上自衛隊のティルト・ローター機の配備先として使わせていただくことが大前提としてあった上で同ございますけれども、そうした場合には同ジティルト・ローター機であるオスプレイを持っている海兵隊、その

海兵隊のオスプレイの整備や補給、こういったものができるようになりますので、そういった意味で佐賀空港をいわば一種の拠点として使わせていただけないかと、こういう話でございます。

今も岩国に米海兵隊の基地がございますので、時々そこにオスプレイが来てそうした補給や整備の拠点として使っております。

私どもは、沖縄の負担軽減、すなわち沖縄におけるオスプレイの活動する時間をできるだけ短くしたいと、そうすることで沖縄の負担を軽減すると、これまで取り組んできてまいりましたが、今後もその策を進めていきたいと思っております。

そうした一環として沖縄で行っているようなオスプレイの訓練、あるいは離着陸を本土で行うとどういう意味で先般よりお願いしている最中でございまして、これを訓練移転と言っているわけでございますが、まさに訓練そのものをですね佐賀空港で行うわけではなくて、訓練は先ほど言いましたように演習場で、離着陸は行いますけど、そういった考えでございます。

そうしたひとつの中で、沖縄の負担軽減というもので訓練移転、さらには、これからアメリカと相談するわけですが、更に、有効に負担軽減のために活用できるものはないかと。アメリカと、他国との話でございまして、今言えるのはこのくらいですが、そういった話を大臣もですね先般佐賀県でさせていただいたということでございます。

(金子市長) …質問⑩

特に、最初の頃は、名護市辺野古への移転ということで、5～10年を暫定というところで、もしうまくいかない場合は永久的に残るのではないかとということ、心配するような声が市民の間にあります。それについては、途中から訓練移転と、今日説明された内容になっております。色々なアメリカの事情もありますし、日本政府の考え方もありますし、それについて、実際どうなのか本日質問させていただきました。

次に、あってはならないことでございます。万が一、航空機等の事故や油の流出があった場合、どこが対応されるのでしょうか、ご説明をお願いします。

(樋道防衛局長)

自衛隊の場合、米軍の場合で枠組みは違いますが、いずれにしても、国としてきちんとした責任、対応を取らせていただくということになります。

その色々な損害があったとして、それに対する補償は当然の話ですので、それに従って対応したいと思います。

(金子市長) …質問⑪

ありがとうございました。次は、環境影響調査です。当然、オスプレイ及びヘリコプターの配備に関する環境影響調査は実施されると考えますが、その場合に調査対象範囲に有

明海および柳川市が含まれるのか、またその調査項目はどのようになるのか、加えて環境影響調査を実施するに当たっては、事前に柳川市への協議があるのか。以上をお願いいたします。

(樋道防衛局長)

環境影響調査は、この場合、佐賀県の条例に従ってということになるかもしれませんが、それは今の段階で事業の全計画を佐賀県にもお示しできていない状況でございますので、そもそも、調査の対象になるのかも含めて考えなければなりません、私どもには、今そういった材料がございません。

従いまして、実施時期や項目にもお答えできませんけども、ただ、いずれにしても、環境影響調査を行うか否か、柳川市とは関わりなく、柳川市と周辺への影響についてはですね、影響が及ぼす恐れがあればきちんとお示しする必要があると思っています。それは、私どもそれで対応したいと思っております。

(金子市長) …質問⑫

最後の質問になります。今後、福岡県有明漁連、J A柳川など利害関係団体等への説明や協議を考えているかお願いします。

(樋道防衛局長)

今の段階では、具体的にこうした個々の団体とどういう説明をしていくかとの計画は持ち合わせておりません。

ただ、今日初めて柳川市さんにお示した状況でありますので、もし、具体的に漁業、あるいは農業にこういったことで不安がある、あるいは、お尋ねしていただければご説明したいと思えますし、またそうした説明の場を設けるべきであるということであれば対応していきたいと思えます。

(金子市長)

有明漁連・J A柳川からそういったことを聞いてくれと言うことでございましたので、質問させていただきました。

また、一昨日は、佐賀県議会、また佐賀市議会でも九州防衛局から説明がありましたので、柳川市議会でもぜひご説明をお願いしたいと思います。私ども窓口になりまして、そういう場を設定していただきたいと思っていますところでございます。

(樋道防衛局長)

そういう機会が与えられるのは非常にありがたいことでございます。

(金子市長)

時間が少しだけありますので、対策チームのキャップの石橋副市長の方から質問させていただきます。

(石橋副市長) …追加質問

今日は丁寧な説明ありがとうございました。まだ肝心のルートとかは決まっていないということで、その点は今後の課題だと思っています。

その中で、1点だけ私の方から質問させていただきます。ヘリコプターの騒音というのはですね、航空機に比べて相当大きい、低空で飛ぶますので、ヘリコプターが飛ぶたびに色々な方から苦情が出てくるというような状況にあります。発生源の大きさ自体は航空機の方が大きいと思いますけど、実際私どもが感じる音の大きさというのはヘリコプターの方が大変だと感じております。

その中で、今日説明があったように、目達原の方で年間12,000回離発着しており、1日当たり40回と伺ったんですけども、これについて、柳川を通るかどうかというのは今後の話だと思いますが、これは非常に大きい問題だと思います。これについては非常に配慮していただきたいと思えます。軍用機であるのでそれほど騒音対策はしていないと思えます。そういった要望があった時にどうなんですか、一定の配慮をしてもらえるのでしょうか。

(槌道防衛局長)

飛行ルートとか工夫できるのはあろうかと思えます。目達原のヘリコプターについては先ほども説明したように、対戦車ヘリのような大きなエンジンもございますが、観測用のヘリ、例えばUH60といった小型、中型の輸送ヘリといったそれほど大きなものではございませんので、恐らくヘリの音も色々ヘリコプターの大きさによって違ってくると思えます。

うるさいと感じるのはCH47という2つのローター、プロペラを持ったヘリコプター、これは、ヘリコプターが結構大きなものでございまして、エンジンも大きいので。私ども、防衛省の本省の市ヶ谷の庁舎にですね、上にヘリポートがございまして、そこに停めることもあります。一番最初に導入した際は周辺の皆様より相当うるさいと言われたこともありました。それもその後の接近経路だとか工夫しながら不安も解消されたと思えますので、そういった意味で飛行ルートや時間帯とかもあると思えます。

色々ご相談させていただきたいと思えます。

(金子市長)

本日は大変ありがとうございました。今回の佐賀空港へのオスプレイ等の配備につきましては、市民生活に直接影響するような大変重要な問題であります。

本日、質問した事項は、市民の皆様方が疑問や不安に感じておられる事項についてご質問したものでございます。

お答えが得られなかった事項につきましては、速やかにご回答いただきますようお願いいたします。

また、今後とも、市民の皆様などから疑問や不安な点など様々な問い合わせが市の方に寄せられると思っております。

このことにつきましては、後日、防衛局の方へご質問させていただきたいと考えております。その節は真摯に対応していただきますようお願いいたします。

併せて今後は、可能な限りの情報をスピード感を持って提供していただきますようお願いいたします。

最後になりますが、本市は、佐賀空港から4キロ程度しか離れていないことから、民間航空機の離発着時には、本市の上空を低空で通過しているのが現状であります。

このため、佐賀空港へのオスプレイ等の配備につきましては、本市の意向を十分踏まえたうえでご判断頂きますようお願いいたします。

また、後日、対策チームによる佐賀県目達原基地への現地調査を計画しております。調査受け入れ等については、特段のご配慮をよろしくお願いいたします。

本日は大変ありがとうございました。